



## 令和4年4月に平城西中学校、神功小学校および右京小学校が統合し、奈良市立ならやま小中学校が開校しました

### 右京小学校50年と未来に向けて

#### 1. 右京小学校の廃校と新しいまちづくりへの挑戦

令和3年12月1日創立50周年を迎えた右京小学校が開校され、令和4年4月をもって神功小学校と共に統廃合され、新しく「ならやま小中学校」として開校しました。

開校の理由は少子化による児童数の減少と「奈良市小学校規模適正化方針」に基づいたものですが、平城ニュータウンの中核である右京地区の住民にとっては残念で心寂しい事ですが、この小学校跡地を地域のアイデアで次の世代に引き継げる「新しいまちづくり」を目指しています。ここでは右京小学校の変遷と、跡地活用について述べさせていただきます。

#### 2. 右京小学校50年の変遷

- ・昭和47年 平城ニュータウン内に「平城第2団地」の入居が始まる
- ・昭和47年 右京小学校と平城西中学校が同時に開校される
- ・昭和54年 右京小学校生徒数が1,000人を超える
- ・昭和55年 右京・神功・朱雀に校区が分割され、朱雀小学校、神功小学校が同時に開校し、右京小学校から分離される
- ・令和3年1月 右京小学校創立50周年を迎える
- ・令和3年3月 右京小学校、神功小学校、平城西中学校が開校される
- ・令和3年4月 右京小学校、神功小学校、平城西中学校が統廃合され、「ならやま小中学校」が開校される
- ・令和5年6月 旧右京小学校の解体工事が始まる

#### 3. 右京小跡活用協議会の結成とまちづくり計画の推進

- ・令和元年10月、右京地区自治連合会が中心となり、

右京地区関係団体、平城ニュータウンスポーツ協会等が参加した「右京小跡活用協議会」が結成され、奈良市との検討会を定期的で開催してきた。

- ・各自治会も独自に「跡地活用についてのアンケート」等が実施された。
- ・奈良市と右京小学校跡活用協議会との会合は累計27回を重ねた。(2023年8月)

#### 4. 跡地利用に関する奈良市への要望事項

- ・地域の避難所として活用
- ・子どもたちの居場所（遊び場所・学びの場所）として活用
- ・文化・スポーツの拠点として活用
- ・地域の高齢化に沿った「デイサービス、ショートステイ」等の高齢者福祉施設として活用することを奈良市と協議を重ねている。

#### 5. 奈良市からの跡地活用の提案

奈良市より、旧右京小学校跡地をAゾーン（10,570㎡）、Bゾーン（8,540㎡）、Cゾーン（7,050㎡）に区分して活用する案が提案された。

- ・Aゾーンは、周辺の住宅環境を踏まえて高低差の少ない住宅地とする。地域住民の要請に沿った、記念公園（仮称「キッズパーク」）を住宅地内に設置する。
- ・Bゾーンの体育館は、平時はスポーツコミュニティ会館として、災害発生時は「地域避難所」として利用する。体育館の南側に管理棟を建設する。グラウンドは、地域が管理する広場として地域のあらゆる人々が自由に利用できるオープンスペースとして、またコミュニティスポーツ団体への貸出しも行うスペースとして利用する。
- ・Cゾーンは民間開発を前提として地域の高齢者が利用しやすい高齢者福祉施設の設置が検討されている。

旧右京小学校跡地は右京地区の大切な宝物でもあり、地域住民の意見や要望を聞き取りながら跡地協議会で協議を重ね「地域の方に喜んでもらえる新たな50年への街づくり」の重要案件として位置付けられます。

#### 6. 新しい街づくり、次の世代へ引継げる街づくり

平城ニュータウンの草創期、成長期、成熟期の半世紀を見守ってきたが地域住民にとっては、旧右京小学校がなくなるのは惜別の思いでした。

50年間、学校行事で築かれて、育てられた地域住民間の人的交流や、様々な右京の文化は無形の財産として残されています。

平城ニュータウン50周年を機会に、ニュータウンの名称から「高の原」と変化し新しいまちづくりが始まっています。右京地区の宝物である学校跡敷地26,160㎡（約8,000坪）の活用は、次の世代への大きな有形財産となります。新しくできる住宅地とキッズパークは新・旧住民の憩いの場となり、体育館や管理棟、グラウンドはスポーツを通して人々の交流が生まれ新しい文化を育む場になる事を期待します。

新たな高齢者施設も地域に喜ばれる運営体制になる事を期待しています。



1974年右京小学校開校時



1990年当時の入学式



奈良市からの右京小学校跡地活用計画図（イメージ図）